

児童発達支援事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和5年2月

事業所名：児童発達支援センターかしのき園 毎日通園(単独)

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	<ul style="list-style-type: none"> 遊具や玩具を定期的に見直し、入れ替えをしている。 走る時や人数の多い時は職員が誘導して安全に過ごせるようにする。 	15				継続して取り組んでいく。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	<ul style="list-style-type: none"> 職員は国の規定数より多く配置している。 今年度より講師を招いて、療育視察・職員の園内研修を行い、職員育成に取り組んでいる。 	14	1			個別対応ができるように職員の人数は余裕を持たせている。職員の知識向上のため研修の参加、先輩職員との意見交換の時間等を設けている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい環境になっているか。また、障害の特性に応じ、設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	<ul style="list-style-type: none"> 指導室内、トイレや手洗い場など必要に応じ写真・カードなどを掲示している 	15				継続して取り組んでいく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策も含めて、毎日降園後玩具や手が触れる場所は消毒を徹底している 子どもたちや職員はこまめな手洗い、うがい 手指消毒を行っている 	15				感染症対策・登降園前後の掃除は毎日行っている。感染予防対策も含めて、毎日降園後玩具や手が触れる場所は消毒を徹底している。子どもたちや職員はこまめな手洗い、うがい手指消毒を行っている。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・定期的に会議を行い、職員間で意見を出し合って振り返りを行っている。					支援会議を定期的に行い、PDCAサイクルの話し合いを行っている。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・実施していない。					時期をみて実施したい。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・各種研修の情報を取得し、受講の促進と受講のための環境の整備をおこなっている。					定期的に園内研修を設け、個人ではキャリアアップ研修などにも参加している。
適切な支援の提供	1 子どもと保護者のニーズや課題がしっかりと分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	・児童発達支援管理責任者を中心に、職員間で話し合い、その内容を元に作成している。 継続して年2回、目標・達成度・次課題など個々に応じた作成を行っている。	15				PDCAサイクルに沿って話し合い、年2回作成している。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援計画の作成	・子どもの特性等を見極め、効果的な支援を実施している。					集団活動を中心に個々の特性に応じた内容を取り入れている。
	3 児童発達支援計画には、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	・児童発達支援管理責任者と保護者が話し合い、子どもの課題を抽出し、支援目標、達成時期などを内容とした計画を作成している。					15
	4 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	・子ども一人ひとりの支援目標、到達時期等職員全員で共有し、定期的にモニタリングを行い、保護者にその進捗状況を説明している。	14	1			児童発達支援管理責任者が現場に入り、必要に応じて職員に助言している。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	・クラスごとに月や週の計画を話し合い、立案している。					継続して取り組んでいく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・連絡ノート・個人懇談・親子通園を通して、又は必要に応じて電話にて対応を行う。	/				長期休暇の場合は定期的に電話で状況を共有・確認している。 連絡ノート・電話等で対応している。
7	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	・子どもの様子や行事などを考慮してプログラムを決定し、保護者に説明している。	14			1	子どもの様子や行事などを考慮してプログラムを決定し、保護者に説明している。 又、併設のかしの木こども園の園児との交流を取り入れている。
8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・前日にクラスや終礼で全体確認している。	/				継続して取り組んでいく。
9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・クラスごとに反省会や、終礼で全体共有している。	/				継続して取り組んでいく。
10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・個人記録に記録すると共に、終礼で全体共有している。 ・個人記録した内容を支援を行う中で活かしていく。	/				個人記録に記録すると共に、終礼で全体共有している。必要に応じて適切な文章表現を先輩職員が指導している。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・定期的なモニタリングを実施し、保護者に説明し、意見・要望を今後の計画に取り入れる。	/				継続して取り組んでいく。
1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参加	・必要に応じ、相談支援事業所の専門員と協議している。	/				継続して取り組んでいく。
2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施		/				

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
関係行政機関との連携	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備						
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・必要に応じて、適宜引継ぎを行っている。					継続して取り組んでいく。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、						
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・必要に応じ連携する。研修についても受講するようにしている。					地域の自立支援協議会の会員になり、定期的に話し合いに参加し、連携を図っている。研修にも必要に応じて参加している。
	7 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・園庭遊びでの関りや季節の遊びや行事など、かしの木こども園の園児と一緒にする機会を増やしていく。	10	1		4	併設している、かしの木こども園の職員や園児と年長児をはじめ個々のベースに応じて行事と一緒に参加したり、遊びの場を共有したりする機会を設けている。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	・運動会などの行事に地域の老人会や自治会の方に参加を呼び掛けている。					行事など案内を出している。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
保護者への説明等	1	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	15				説明会で説明している。 必要時の問い合わせも受け付け返答している。
	2	児童発達支援計画を示しながら、支援内容の説明がなされたか	15				個人懇談で実施している。
	3	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	15				親子通園でテーマを決め、資料配布と共に話し合いの場を設けている。 随時相談には応じている。
	4	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	15				引き続き、連絡ノート・懇談会の場や親子通園で説明して、話し合う。
	5	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14	1			個人懇談は年3回設け、他にも電話などで個別対応を行っている。
	6	親子通園等の場において、保護者同士の連携に支援されているか	14	1			他クラスの保護者とも親睦がとれるよう毎月クラスの組み合わせを変え、話し合いの時間を設けている。
	7	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	11			4	継続して取り組んでいく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
			はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
8	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	・親子通園や連絡ノート、「かしのき園だより」での情報の提供の他に、バスの登降園時にも園からの連絡事項や子どもの様子を伝えている。	14	1			連絡ノート、個人懇談、親子通園、バス乗降時など情報共有を行っている。 親子通園時に行事等の活動の様子を動画で見てもらっている。	
			15					継続して取り組んでいく。
			・バスの登降園時にあまり子どもの様子を教えてもらえたことがない。 ・その日の子どもの体調や気になる事をバスの先生に伝えるとしっかり様子を見て配慮して頂けている。					
9	定期的な会報やホームページ等で、活動概要や行事予定などについて、子どもや保護者に対して発信しているか	・社会福祉法人樫の木会のホームページに情報等を掲載。施設待合室の掲示板上に随時必要な情報を掲示している ・適宜、園だよりや手紙等でお知らせしてる。	15				継続して取り組んでいく。	
			・園だよりでその月の活動内容や行事予定を知らせていただいている。					
10	個人情報の取扱いに十分注意されているか	・個人情報取扱規定に基づき、秘密の保持に努めている。	15				継続して取り組んでいく。	
			・十分に注意されていると思う。					
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	15				入園説明会で説明すると共に状況に応じて必要時に書面でお知らせしている。	
			・入園説明会で説明し、協力をお願いしている ・変更等の場合は、その都度新しい情報を提供する。 ・入園前に説明してもらった。					
	2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	・月に1回避難訓練を必ず実施している。 又、災害に備えての備蓄もしている。	15				月に1回避難訓練を必ず実施している。 又、災害に備えての備蓄もしている。
				・避難訓練はいつも違った内容で取り組まれていて良いと思う。				
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	・各種団体が実施する研修会への受講や職場会議で討議を行っている。					継続して取り組んでいく。
	4	やむを得ず身体的拘束を行う場合における組織的な決定と子どもや保護者に事前に十分に説明、了承を得たうえでの児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	・身体的拘束は行わない。					継続して取り組んでいく。
5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	・保護者から情報を得て、医師の指示書に従い適切に対応している。					継続して取り組んでいく。	
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	・毎日、職場会議で、ヒヤリとすることがあれば話し合い、防止策などを含めて記録する。					継続して取り組んでいく。	